軽井沢シンフォニックコーラス
TUTTI　第4号　2016.10.28.

緑の音楽祭＜6月12日（日）大賀ホール＞

今年は軽井沢から7団体が参加し、シンフォニックコーラスは終わりから2番目の順番で、『フニクリ・フニクラ』と『リパブリック賛歌』を歌いました。比較的よく歌えた感触があり、坂井先生からもまずまずという評価をいただきました。しかし後に配布されたCDを聴いてみるといろいろ問題点が耳につき、もっとていねいに、しかも力強く歌わねばならないと痛感し、自分たちが歌った録音を聴くことはとてもいい反省と勉強になると思い知らされました。それでも、『フニクリ・フニクラ』の最後の「へい！」はきめつけに力強く、「やればできるではないか」でした。

ゲストの＜とうみ混声合唱団＞は、人数が33名と私たちの倍近くいるせいもあって、声部のバランスがとれ、歌に厚みと安定感があり、すてきな演奏でした。信長貴富作曲の『夕焼け』は私たちが石巻で歌った曲ですけれど、ああ、このように歌うのだ、と感銘を受けました。

第2回出張演奏会＜7月25日（月）木もれ陽の里＞

今回の出張演奏会は「木もれ陽の里」からご依頼を受けての出張でした。季節にあわせて「七夕さま」などを採り入れ、最後には北澤さんの追分馬子唄の独唱つきで『宿場さんざめき』を歌い、大きな拍手をいただきました。歌いながら、お年寄りの皆さんが歌にのってこられるのが感じられ、胸が熱くなりました。

先回の静山荘のときは、はじめての試みのせいか、出だしがやや緊張気味でしたが、今回ははじめからくつろいだ雰囲気で、みなさんと一緒に歌う楽しさを満喫し、「またぜひに」との声に送られるようにして施設をあとにしました。

敬老会演奏会＜9月19日（月）借宿公民館＞

毎年恒例の借宿区の敬老会に出演。このところ連続してお年寄りの皆さんのために歌う事になりましたが、考えてみれば、私たちのメンバーの多くも「聴かせていただく」ほうの席にいてもおかしくないわけで、少し複雑で少し嬉しいような気分でした。『浜辺の歌』『フニクリ・フニクラ』を解説つきで歌い、間で『小さい秋』を皆さんと一緒に歌いました。今回はいままでの午後ではなく午前の終わり近くの出番にしましたが、午前中だけで解放されるので具合がよいようで、お弁当をもらって心も軽く家路につきました。

孫も楽しむコンサート　遠山美枝子（アルト）

敬老会には、毎年娘が楽しみに来ていて、今年はシンフォが歌ったあと、3歳の孫が廊下で、“だーれかさんが、だーれかさんが”とうたっていてびっくり・・・　それどころか、家に帰ってから“フニクリ～フニクリ～　フニクリ～”と大声で叫んでいたので、皆で大笑いしてしまいました。お蔭様で、娘も孫も、本当に楽しかったようでした。

“むさしの”歌のコンサート＜10月1日（土）大賀ホール＞

武蔵野音楽大学の佐久地域と群馬県在の卒業生たちによるコンサートが開かれることになり、寺田和佳子先生が指揮者の活動として軽井沢シンフォニックコーラスを率いて出演することになり、私たちは日ごろのご指導への感謝の思いもこめて参加することになりました。曲は混声が『リパブリック賛歌』、女声が群馬の［こうる・ゆうび］との共演で金子みすゞの詩による曲「わたしとことりとすずと」「わらい」「ほしとたんぽぽ」を歌いました。

武蔵野音大卒業生による演奏会にあたり　寺田和佳子（指揮者）

今回の演奏会は降って湧いたような大賀ホールでの演奏会になりましたが、皆さんにご協力いただきありがとうございまいした。今更のことですが、その経緯をお話したいと思います。

私の選挙が終わった年の秋ごろ、突然高柳と名乗り、武蔵野音楽大学で声楽を教えていたという方から電話がありました。彼女の別荘のご近所さんから武蔵野の卒業生が議員になったことを知らされ、コンタクトをとることにしたそうです。電話をいただいた時には、私にはこの名前にまったく覚えがありませんでした。しかしお会いして話していくうちに、大学時代にいつも一緒にいた友人の先生だったことがわかりました。